

1 自治体名	2 関係部署名	
兵庫県	保健医療部健康増進課	
1 行政課題の分野	2 支援施策の分類	3 対象とする世代
医療・公衆衛生	その他の支援施策	大学生・専門学校生等
4 事業者の協力を求める内容	5 困りごとの解決・解消に向けた対応期間	
解決に向けたアイデアの提供	中長期的に対応していきたい	
6 解決・解消に要する費用に対する考え方		7 補足資料の有無
社会貢献として無償協力願いたい		なし

1 困りごとと事業者に期待する内容(要約)

大学生の朝食摂取率向上の取組が一部大学に留まり、歯科受診の重要性も十分浸透していないことから、県内大学への展開に向け、企業等の協力による啓発や情報発信を期待している。

2 現状の行政課題

○週6日以上朝食を摂取している割合は20代が最も少なく、男性47%、女性65%であった。大学進学を機に一人暮らしを始めるなど、生活環境の変化が影響していると考えられる。朝食を欠食する理由は、20代男性では「食べるより寝たい」(53%)と最多で、20代女性では「食べる時間がない」(49%)と最多。
一方で、適切な食事の量を(だいたい)知っているという割合は20代男性71%、20代女性78%と高く、実際の食行動と認識には乖離がある状況。(令和3年度ひょうご栄養・食生活実態調査結果より)
○高校卒業後、法定歯科健診はなく、20歳以上の定期的な歯科健診の受診率は60.2%となっており、歯周疾患のリスクが高まる20代の受診率は45.4%と他の年代に比べて最も低く、若い世代への働きかけが急務となっている。(令和3年度健康づくり実態調査)歯周病は初期には自覚症状が乏しく、若年期からの予防・早期発見が重要。将来的な重症化や口腔機能低下を防ぐため、若者世代の定期歯科健診受診率向上と受診習慣の定着が課題。
○若い世代への朝食摂取と健全な食習慣、口腔の健康づくりの推進は、生涯にわたる健康づくりの基盤として重要。

3 行政課題に対する施策(事業)展開による対応状況と困っていること(課題)

○兵庫県栄養士会と連携してポスターやリーフレットを作成し、朝食摂取の普及啓発を実施。令和7年度には、「朝食レシピコンテスト(15分以内で調理できるもの、連携企業の商品を使用)」を開催。大学生を中心に書類審査・試作試食による最終審査を行い、約60点の応募作品から7作品を優秀作品として、県HPに掲載している。令和8年度はレシピを活用したポスター作成やインスタ投稿など朝食レシピの普及啓発活動を予定している。
取組に携わった学生の意識向上は見られたものの、県全体の朝食摂取率向上には、栄養への関心が低い若者層へのさらなるアプローチが課題である。
○令和6～7年度に「ひょうご健口推進部長」を委嘱し、予防歯科を体験・学習できるイベントを開催するとともに、ポータルサイトやSNSで健口情報を発信し、県民の健口意識向上を図った。令和8年度は、20代の歯科健診受診促進に向け、大学と連携して学生対象のアンケート調査やグループインタビューを実施する予定である。
イベント参加者(500名以上)の健口意識は向上したものの、若年層の定期的な歯科受診につなげるための効果的なアプローチが課題である。

4 企業・団体に「困りごと」解決に向けて連携や協力を求める内容

○レシピの商品化など企業活動を組み合わせて大学生等が朝食を気軽に摂取できる、摂取したくなる取組を推進していきたい。
○健康や栄養に興味のない大学生が自分の身体に関心を持ち、自主的に朝食を摂取したくなるような新たな取組を事業者の方と一緒に考えていきたい。
○大学生や専門学校生などの若者が主体的に定期的な歯科受診の習慣化につながる啓発方法(活動)と一緒に企画していきたい。
○県民による健口活動の普及拡大に向け、デジタルツールを活用した情報発信や行動変容の促進についてともに推進していきたい。